

よこはまユースレター

発行/公益財団法人よこはまユース
tel.045-662-3716 fax.045-662-7645
URL <https://yokohama-youth.jp/>
Eメール soumu@yokohama-youth.jp

青少年がいきいきと活動できる機会をつくります

よこはまユースでは、青少年が地域社会で主体的にいきいきと活動できる機会の創出を目指しています。本号では、青少年が自ら考え行動し変化や成長につながった4つの事業をご紹介します。*裏面にも掲載しています

青少年が自ら企画！『社会参画プロジェクト』

このプロジェクトは青少年に主体的な活動機会を提供することを目的に、大学生世代のメンバーが横浜市内の施設を活用したり、団体と連携しながら『高校生が社会と繋がることができる』事業を考え、実施しています。

今年度は「高校生の居場所づくり」と「異年齢交流」の2つのテーマでチームを作りました。スケジュール管理から企画会議、イベント実施まで全てをメンバーが担っており、主体的な活動に繋がっています。対面だけでなくオンラインも活用しながら月1~2回、次回話し合うことと日程を明確にしてから解散すること、議事録を作成することを決めごとに行っています。また、メンバー各々の得意分野を活かして役割分担をしたり、苦手分野をフォローし合うなど、互いを尊重しながら活動を進めています。

1月以降のイベント実施に向けて、メンバーがモチベーションを維持できるように職員もサポートしていきます。



居場所や地域を『知る、伝える。ボランティア』

横浜の子ども・若者、まちづくりなどに関わる個人・団体を、若者がボランティアの目線で取材します。取材記事をウェブサイトに掲載し記録を残すことで、地域活動を細かく知る一助となることを目指しています。また、地域との関わりが希薄な若者が『知ることから地域につながる』ようになり、自身の生活や仕事と地域の関係性を考えるきっかけにもなっています。

取材をして自分の言葉で記事にすることが基本的な活動ですが、人から聞いた話を他者に伝える形で言語化することは簡単なことではありません。この過程を通じて若者は主体的に地域への理解を深めていきます。

参加した若者からは「自治体でやっているイベントやそのポスターが自然と目に入るようになり、どういう人たちが運営し、どんな内容なのか気にするようになった」との声がありました。日常の中に地域の取組みが感じられる機会になっていることは嬉しいことです。



自ら考え活動することの大切さ『野島クリスマスキャンプ』

11月23日から24日にかけて1泊2日で『野島クリスマスキャンプ2024』を実施しました。対象は横浜市内小中学校の個別支援学級に通う小学5年生から中学3年生です。今年は児童生徒、保護者、ボランティア、実行委員の総勢100人が参加しました。事業の特徴は、子どもたちに対してボランティアがマンツーマンで対応すること。ボランティアは、教員を目指す専門学生や大学生、一般の社会人などで、当日は障がい児理解研修を受講してから子どもたちと一緒に活動します。研修で学んだことを頭に入れながら、お互いに恐る恐る歩み寄るような少し固い雰囲気スタート。歌や踊り、グループレクリエーションが進むにつれて、緊張もほぐれ柔らかい雰囲気に変わっていききました。

ボランティアのなかには子どもたちに対して「どこまで手を差し伸べていいのだろうか?」「親切とお節介の違いとは?」といった疑問も生まれ、活動しながら自分の意識の変化や対応を考えていく姿が見られました。キャンプ終了後の振り返りでは、「参加前と障がい児に対する意識の変化があった」とほとんどのボランティアが回答してくれました。指示される、やらされる活動ではなく、自ら考え選択し行動する場面が多い活動なので意識の変化や成長につながる体験となりました。



【ご報告】第63回『爆笑!濱っ子寄席』

(11月8日/関内ホール大ホール)

今年も会場は爆笑の渦に包まれ大盛況でした。出演者の皆様をはじめ、多くの方にご支援・ご協力いただきありがとうございました。(当日募金額:101,574円)

▼当日の演目はこちら▼



さくらリビングを盛り上げる！『青少年委員会』

さくらリビングでは、中学生から社会人までの幅広い年代の10人が『青少年委員会』の委員として活動しています。青少年委員会は、さくらリビングの前身の施設から続いている事業です。活動には1年という任期がありますが、継続して参加する委員も多く、中には7年間続けている委員もいます。

主な活動は月1回の定例会や、さくらリビング内でのイベント実施、外部イベントへの参加などです。定例会ではイベントの企画やイベント後の振り返りなどをテーマに話しあっており、司会進行や議事録の作成など全て青少年委員が自ら行います。

今年度は8月にさくらリビングのフリースペースにて夏祭りを実施し、11月には、県立青少年センターで行われる『子どもフェスティバル』への参加に向けたプレイベントを実施しました。『さくらリビングをより良い居場所にするためには』というテーマのアンケート調査も同時に行いました。

自分たちのやりたいことや、職員からのお願いを積極的にかたちにしていく青少年委員たちの姿に、職員もパワーを貰っています。



活動レポート

【チームで協力！Y.S.C.C ふれあいフットサル教室】

NPO 法人横浜スポーツアンドカルチャークラブ様にお声をかけていただき、12月4日、名瀬小キッズクラブに横浜のプロフットサルチームの『Y.S.C.C. YOKOHAMA FUTSAL』から高橋健選手と味岡元輝選手が遊びに来てくれました。

学年混合の4チームに分かれて活動しました。途中、作戦タイムもとりながら、蹴ったボールを制限時間内にコーンに何回当てられるのかといったゲームやドリブルリレーなどのチーム戦を行いました。「チームメイトが失敗したときにはなんて声をかける？」と高橋選手からの問いかけに、子どもたちは「ドンマイ！大丈夫！」。

最後は選手を交え、特別ルールでゲームにも挑戦。みんな汗だくになって真剣にボールを追いかけていました。終わった後に両選手は子どもたちからサイン攻めにあっていました。

すっかりフットサルの楽しさに魅了され、「試合を見たい！」と保護者と一緒に翌々日のホームゲームを応援に行った児童もいたそうです。

【よこはまユースの取組みを多くの方に知ってもらうためにご協力をお願いします】

よこはまユースでは事業の案内や報告、ボランティアの募集等をホームページやSNSで広報しています。フォローやリポスト等を通じてよこはまユースの取組みを多くの方に拡げていただきますようお願いいたします！

▼法人のホームページ・SNSはこちら▼

ホームページ



「note」では事業に参画している大学生ボランティアが素敵なレポートを書いてくれています。この機会にぜひご覧ください！

Thank you for your support.

ありがとうございました！

2024年6月1日から10月31日までの寄附金

◆ユース賛助会費 67件 432,000円

◆一般寄附金 15件 43,545円



●寄附金協力者（順不同、敬称略）

【団体名】ブックオフコーポレーション(株)/神奈川県環境協同組合/野島町内会/神奈川県青少年指導員協議会/三ツ境幼稚園/第一カーボン(株) 鶴見区子ども育成会連絡協議会/(有)シュープリント/馬車道商店街協同組合/(有)武/横浜信用金庫/(株)横浜スタジアム 川本工業(株)協栄会/西区子ども育成会連絡協議会/西区ジュニアリーダーズクラブ/社会福祉法人横浜共生会/横浜市民少年団

【個人名】池田心み子/濱倉公子/佐藤雅亮/岳野万里夫/入江ゆきよ/青木和雄/松井祐次郎/中谷忠宏/池田加津男/橋本康正/恩田幸一/清水桂子/大久保晴司 坂爪正博/高橋宣子/工藤春台/飯塚道子/日比野政芳/中村輝次/古澤竜夫/武久美子/片岡嘉久江/坂口三郎/三橋ツネ/野村啓子/笠原光子/吉富多美 橋川和夫/竹内利穂/榎野雅子/松井孝子/重森幹子/山本亜紀子/出口晴基/下野坊和子/佐藤博/石塚昇

あけましておめでとうございます。昨年はわがバイスターズがリーグ3位からの下克上でみごと26年ぶりの日本一に輝きました。勝利の瞬間はテレビ観戦となってしまいましたが、スタジアムとその周辺の熱狂ぶりに圧倒されました。今年はぜひリーグ優勝からの連続日本一となるよう全力で応援します。I☆YOKOHAMA (まっきー)